

# シリーズ：進化し続ける産総研のコーディネーション活動(第59回)

## 地域発イノベーション創出のための機能分子

上席イノベーションコーディネータ なかむら おさむ 中村 修

### はじめに

産総研は、第4期中長期計画期間を迎えるにあたり、持続発展可能な社会構築に資するイノベーション創出にさらに貢献すべく、革新的技術開発のための戦略および体制について活発な議論を展開して準備を進めています。開発した研究成果の社会への「橋渡し」役として、産総研の地域センターが果たす役割がとりわけ大きいことは論をまちません。

### 産総研中国センター友の会(産友会)の立ち上げ

地域センターの活動は、1)いかにして機能的な産学官連携のネットワークを形成するか、2)地域企業の抱える課題をつまびらかにして、それをいかにして解決するか、3)産総研の成果を活用して、いかにして地域の産業・経済の活性化に資するか、に集約されます。

産総研中国センターは、中国経済産業局、中国経済連合会、自治体、公設研、大学、支援機関などと連携し、地域企業の技術課題を解決すべく、オール産総研の技術シーズとのマッチングを図りながら、中国地域のイノベーションハブとして、地域産業・経済の活性化に資する活動を積極的に展開してきました。中国地域の企業とのネットワークをさらに強化すべく、筆者が中国センター所長に就任した2011年度に立ち上げたのが、産総研中国センター友の会(産友会)です。

現在、会員企業は180社を数え、業種の分野はナノテクノロジー・材料・製造や環境・エネルギーを中心に多岐にわたりますが、中国地域の産業構造を反映した構成になっています。毎月メルマガを発行して、月ごとに決められたテーマに関する産総研や関連機関の技術シーズ、補助金、イベントの情報を提供するとともに、顔の見える活動を通じて会員企業

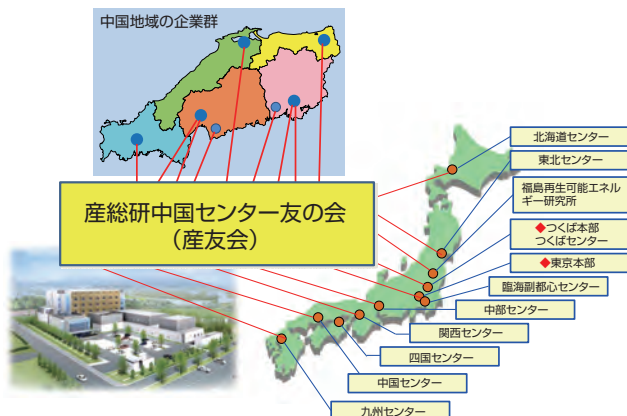
の課題を把握すべく精力的に企業訪問を展開しています。

### 本格研究ワークショップの有効活用

企業の抱える課題を解決するにふさわしい産総研の技術シーズを掘り起こすことが、地域発のイノベーション創出の第一歩であるとの信念に基づき、マッチングの事例を地道に積み上げる作業を展開してきました。その好事例を、2012年度の「本格研究ワークショップ in ひろしま」および2013年度の「本格研究ワークショップ in やまぐち」において紹介しました。それらは、共同研究に発展し、ものづくり補助金を活用するなどの連携を進め、サポインを獲得するに至った事例も生み出しました。とりわけ、日本の製造業を支える中小企業の国際競争力を高めるための24時間365日無人稼働の生産ライン構築に向けて、産総研戦略予算「中小企業支援のためのランダムピッキングロボットシステムの開発」のプロジェクトリーダーを務め、「ひろしま生産技術の会」の会員企業、広島県立総合技術研究所、産総研知能システム研究部門との共同開発を進めることができたことは大きな収穫でした。(参照：産総研TODAY2014-3)

### イノベーション創出の合言葉：『技術×連携＝革新』

地域発イノベーション創出のための合言葉として『技術×連携＝革新』を掲げ、産総研技術交流サロンの開設、産総研オープンラボへのツアー企画などを中国産学官連携センターのメンバーとともに進めてきました。中鉢理事長が常々、産総研は「敷居は低く、間口は広く、奥行きは深い」姿勢を貫き、「そうだ、産総研があった!」と思い出してもらえるような存在になるべきだと訴えています。イノベーション創出のための機能分子として「地方創生」の一翼を担うべく努力してまいる所存ですので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



産総研と連携して、皆さまの技術課題を解決しませんか?



「産総研中国センター友の会」によるマッチングのワンストップサービス

筆者からのメッセージ